

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 近畿財務局長

【提出日】 平成23年11月11日

【四半期会計期間】 第115期第2四半期(自平成23年7月1日至平成23年9月30日)

【会社名】 神戸発動機株式会社

【英訳名】 Kobe Diesel Co., Ltd.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 矢野 繁

【本店の所在の場所】 兵庫県明石市二見町南二見1番地

【電話番号】 (078)949-0800(代)

【事務連絡者氏名】 管理部長 山崎 靖宏

【最寄りの連絡場所】 兵庫県明石市二見町南二見1番地

【電話番号】 (078)949-0800(代)

【事務連絡者氏名】 管理部長 山崎 靖宏

【縦覧に供する場所】 東京支社
(東京都港区新橋三丁目1番11号)
株式会社大阪証券取引所
(大阪市中央区北浜一丁目8番16号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次 会計期間		第114期 第2四半期累計期間	第115期 第2四半期累計期間	第114期
		自 平成22年4月1日 至 平成22年9月30日	自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日	自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日
売上高	(千円)	7,166,774	7,102,977	13,838,225
経常利益	(千円)	351,143	414,142	436,912
四半期(当期)純利益	(千円)	142,346	358,123	205,479
持分法を適用した場合の 投資利益又は投資損失()	(千円)	221	143	212
資本金	(千円)	2,215,000	2,215,000	2,215,000
発行済株式総数	(株)	28,000,000	28,000,000	28,000,000
純資産額	(千円)	8,572,364	8,911,689	8,643,199
総資産額	(千円)	17,841,816	17,838,930	17,380,744
1株当たり四半期 (当期)純利益金額	(円)	5.09	12.81	7.35
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額	(円)			
1株当たり配当額	(円)			3.00
自己資本比率	(%)	48.0	50.0	49.7
営業活動による キャッシュ・フロー	(千円)	410,126	1,747,474	24,414
投資活動による キャッシュ・フロー	(千円)	59,723	23,064	108,807
財務活動による キャッシュ・フロー	(千円)	77,654	20,610	306,221
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高	(千円)	4,785,728	5,867,387	4,122,366

回次 会計期間		第114期 第2四半期会計期間	第115期 第2四半期会計期間
		自 平成22年7月1日 至 平成22年9月30日	自 平成23年7月1日 至 平成23年9月30日
1株当たり四半期純利益金額	(円)	1.84	1.48

(注) 1 売上高には、消費税等は含まれていない。

2 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、第114期第2四半期累計期間、第115期第2四半期累計期間及び第114期は、潜在株式が存在しないため記載していない。

3 当社は、四半期連結財務諸表を作成していないので連結会計年度に係る主要な経営指標等の推移については、記載していない。

2 【事業の内容】

当第2四半期累計期間において、当社グループ（当社及び当社の関係会社）において営まれている事業の内容に重要な変更はない。また、主要な関係会社についても異動はない。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第2四半期累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はない。

なお、重要事象等は存在していない。

2 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結はない。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期会計期間の末日現在において当社が判断したものである。

(1) 経営成績の分析

当第2四半期累計期間におけるわが国経済は、国内の生産供給体制も徐々に回復して底打ちの兆しも出てきたが、依然として東日本大震災の影響は各方面に色濃く残っている。又、ギリシャを中心とするEU経済は混迷の度を増し、新興国でも経済減速の気配が見られる等の不安材料が円高と相俟ってわが国経済回復の足枷となりつつある。

一方、わが国造船業界も、海運市況低迷や円高等を克服すべく徹底したコスト削減と省エネ・環境対策等新たな付加価値の開発により受注確保に注力しているが、極めて厳しい状況が当面続くものと見られる。

この様な状況下において、当社は受注・販売活動に全力を傾注した結果、当第2四半期累計期間の売上高では、主力製品である船用内燃機関は、52億7千1百万円と前年同四半期と比べ5千7百万円（1.1%）、修理・部品等は18億3千1百万円と前年同四半期と比べ6百万円（0.4%）、売上高の総額は71億2百万円と前年同四半期と比べ6千3百万円（0.9%）の各々減収となった。

損益面では、部品売上が順調に推移したことや生産性向上に全力を傾注し、製造原価・販管費の圧縮に最大限注力した結果、営業利益は4億1千6百万円と前年同四半期と比べ6千万円（17.1%）、経常利益は4億1千4百万円と前年同四半期と比べ6千2百万円（17.9%）、四半期純利益は主機関売買契約解約料2億9千6百万円を特別利益に計上したことにより3億5千8百万円と前年同四半期と比べ2億1千5百万円（151.6%）の各々増益となった。

(2) 財政状態の分析

資産

流動資産は、前事業年度末に比べ4.7%増加、137億5百万円となった。これは主に、現金及び預金が17億4千5百万円増加したことなどによる。

固定資産は、前事業年度末に比べ3.7%減少、41億3千3百万円となった。これは主に、有形固定資産の減価償却費の計上による。

この結果、総資産は、前事業年度末に比べ2.6%増加、178億3千8百万円となった。

負債

流動負債は、前事業年度末に比べ1.9%増加、64億2千9百万円となった。これは主に、未払法人税等が3億7百万円増加したことなどによる。

固定負債は、前事業年度末に比べ2.8%増加、24億9千7百万円となった。これは主に、長期借入金が4千9百万円増加したことなどによる。

この結果、負債合計は、前事業年度末に比べ2.2%増加、89億2千7百万円となった。

純資産

純資産合計は、前事業年度末に比べ3.1%増加、89億1千1百万円となった。これは主に、利益剰余金が2億7千4百万円増加したことなどによる。

(3)キャッシュ・フローの状況の分析

当第2四半期累計期間末における現金及び現金同等物(以下、「資金」という。)は、前事業年度末に比べ17億4千5百万円増加し、58億6千7百万円となった。

当第2四半期累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりである。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動による結果得られた資金は、前年同四半期に比べ13億3千7百増加、17億4千7百万円の収入となった。前年同四半期に対する主な要因は、税引前四半期純利益及び仕入債務の増加とたな卸資産の減少によるものである。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動による結果使用した資金は、前年同四半期に比べ3千6百万円減少、2千3百万円となった。前年同四半期に対する主な要因は、有形固定資産の取得による支出とその他の収入によるものである。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動による結果得られた資金は、前年同四半期に比べ9千8百万円増加、2千万円となった。前年同四半期に対する主な要因は、長期借入の収入によるものである。

(4)事業上及び財務上の対処すべき課題

該当事項なし。

(5)研究開発活動

該当事項なし。

(6)従業員数

当第2四半期累計期間において、従業員数の著しい増減はない。

(7)生産、受注及び販売の実績

当社の事業は、船用内燃機関及びこれらの付随業務の単一セグメントであるため、「生産、受注及び販売の実績」については、事業区分別に記載している。

生産実績

当第2四半期累計期間における生産実績を事業区分別に示すと、次のとおりである。

事業区分	生産高(千円)	前年同四半期比(%)
船用内燃機関	4,593,519	13.5
修理・部品	1,831,458	0.4
合計	6,424,977	10.1

(注) 1 金額は、販売価格によっている。
2 上記の金額には、消費税等は含まれていない。

受注実績

当第2四半期累計期間における受注実績を事業区分別に示すと、次のとおりである。

事業区分	受注高(千円)	前年同四半期比(%)	受注残高(千円)	前年同四半期比(%)
船用内燃機関	3,688,219	34.9	12,568,857	16.1
修理・部品	1,619,477	0.8	300,419	40.9
合計	5,307,696	27.3	12,869,276	16.9

(注) 上記の金額には、消費税等は含まれていない。

販売実績

当第2四半期累計期間における販売実績を事業区分別に示すと、次のとおりである。

事業区分	販売高(千円)	前年同四半期比(%)
船用内燃機関	5,271,519	1.1
修理・部品	1,831,458	0.4
合計	7,102,977	0.9

(注) 1 主な相手先別の販売実績及び当該販売実績の総販売実績に対する割合

相手先	前第2四半期累計期間		当第2四半期累計期間	
	販売高(千円)	割合(%)	販売高(千円)	割合(%)
(株)カナックス	2,784,607	38.9	2,711,789	38.2
今治造船(株)	1,322,000	18.4	790,000	11.1
三井物産(株)	717,000	10.0		

2 上記の金額には、消費税等は含まれていない。
3 当第2四半期累計期間における三井物産(株)に対する販売高は440,000千円(6.2%)である。

(8)主要な設備

当第2四半期累計期間において、主要な設備の著しい変動及び主要な設備の前事業年度末における計画の著しい変更はない。

(9)経営成績に重要な影響を与える要因

当社を取り巻く事業環境は非常に競争が厳しく、主力製品である船用内燃機関の受注・販売は計画どおり推移しているが、鉄鋼等原材料価格や今後の海外情勢・景気の動向等、先行きの不透明感が払拭しきれない状況となっている。

当社においては、原材料や購入部品等の大幅な価格変動は直接的に原価に反映され、業績及び財務状況に重要な影響を及ぼす可能性がある。

(10)経営戦略の現状と見通し

当社としては、これらの状況を踏まえて当社が強固な経営基盤を構築するため、財務体質の改善と生産性・品質の向上とともにコスト競争力の強化を図り、事業環境の変化に適応した収益の確保に努めていく所存である。

(11)資本の財源及び資金の流動性についての分析

当社の現金及び現金同等物の第2四半期会計期間末残高は、前事業年度末より17億4千5百万円増加、58億6千7百万円となった。このうち、主な増加要因は、税引前四半期純利益の増加と売上債権及びたな卸資産の減少等である。

また、現金及び現金同等物の四半期末残高は、運転資金として有効活用する予定である。

(12)経営者の問題認識と今後の方針について

当社の経営陣は、現在の事業環境及び入手可能な情報に基づき最善の経営方針を立案するよう努めているが、当社を取り巻く事業環境は更に厳しさを増すことが予想される。

今後の方針については、生産能力強化にあわせた受注活動を行っており、安定的な生産体制を確立していくことが課題である。

更に、受注・販売体制の強化を図り、コスト削減への取り組みを強化し、徹底した品質管理やアフターサービス体制の向上・強化に努めて行く所存である。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	40,000,000
計	40,000,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間 末現在発行数(株) (平成23年9月30日)	提出日現在 発行数(株) (平成23年11月11日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	28,000,000	28,000,000	大阪証券取引所 (市場第二部)	単元株式数は1,000株である。
計	28,000,000	28,000,000		

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項なし。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項なし。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項なし。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成23年7月1日～ 平成23年9月30日		28,000,000		2,215,000		1,709,750

(6) 【大株主の状況】

平成23年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
三菱重工業株式会社	東京都港区港南2丁目16番5号	9,240	33.00
三井物産株式会社	東京都千代田区大手町1丁目2番1号	4,610	16.46
株式会社シーケービー	東京都渋谷区渋谷2丁目10番6号	1,591	5.68
株式会社商船三井	東京都港区虎ノ門2丁目1番1号	996	3.55
株式会社新来島どっく	愛媛県今治市大西町新町甲945番地	845	3.01
株式会社山田クラブ21	東京都渋谷区渋谷2丁目10番6号	718	2.56
浜口誠昭	福岡市中央区	709	2.53
株式会社カナックス	愛媛県松山市問屋町5番8号	590	2.10
日本郵船株式会社	東京都千代田区丸の内2丁目3番2号	550	1.96
株式会社三井住友銀行	東京都千代田区丸の内1丁目1番2号	500	1.78
計		20,349	72.68

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成23年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 35,000		
完全議決権株式(その他)	普通株式 27,902,000	27,902	
単元未満株式	普通株式 63,000		
発行済株式総数	28,000,000		
総株主の議決権		27,902	

(注) 「単元未満株式」欄には、当社所有の自己保有株式が次のとおり含まれている。
 自己保有株式 277株

【自己株式等】

平成23年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式総数 に対する所有 株式数の割合(%)
(自己保有株式) 神戸発動機株式会社	兵庫県明石市二見町南二見 1番地	35,000		35,000	0.13
計		35,000		35,000	0.13

2 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期累計期間において役員の異動はない。

第4 【経理の状況】

1．四半期財務諸表の作成方法について

当社の四半期財務諸表は、「四半期財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第63号)に基づいて作成している。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期会計期間(平成23年7月1日から平成23年9月30日まで)及び第2四半期累計期間(平成23年4月1日から平成23年9月30日まで)に係る四半期財務諸表について、新日本有限責任監査法人により四半期レビューを受けている。

3．四半期連結財務諸表について

当社は、子会社がないため、四半期連結財務諸表は作成していない。

1【四半期財務諸表】
(1)【四半期貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当第2四半期会計期間 (平成23年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	4,122,366	5,867,387
受取手形及び売掛金	4,892,318	4,296,875
製品	1,500,402	874,367
仕掛品	1,848,199	2,019,599
原材料及び貯蔵品	514,751	530,102
その他	242,875	155,923
貸倒引当金	34,459	38,833
流動資産合計	13,086,453	13,705,422
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	2,393,292	2,337,243
その他(純額)	1,706,394	1,624,634
有形固定資産合計	4,099,687	3,961,878
無形固定資産	60,766	68,890
投資その他の資産		
投資その他の資産	136,648	105,549
貸倒引当金	2,810	2,810
投資その他の資産合計	133,837	102,739
固定資産合計	4,294,291	4,133,508
資産合計	17,380,744	17,838,930
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	4,115,323	3,884,986
1年内返済予定の長期借入金	771,600	842,900
未払法人税等	32,293	339,994
前受金	492,068	530,578
受注損失引当金	250,000	250,000
その他の引当金	100,311	108,970
その他	545,320	471,956
流動負債合計	6,306,917	6,429,387
固定負債		
長期借入金	1,963,700	2,013,400
退職給付引当金	214,307	235,771
その他の引当金	122,694	119,402
その他	129,925	129,278
固定負債合計	2,430,628	2,497,853
負債合計	8,737,545	8,927,240

(単位：千円)

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当第2四半期会計期間 (平成23年9月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,215,000	2,215,000
資本剰余金	1,709,750	1,709,750
利益剰余金	4,702,525	4,976,753
自己株式	6,497	6,560
株主資本合計	8,620,777	8,894,942
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	22,421	16,747
評価・換算差額等合計	22,421	16,747
純資産合計	8,643,199	8,911,689
負債純資産合計	17,380,744	17,838,930

(2)【四半期損益計算書】
【第2四半期累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)
売上高	7,166,774	7,102,977
売上原価	6,236,674	6,142,568
売上総利益	930,099	960,409
販売費及び一般管理費	¹ 574,433	¹ 543,992
営業利益	355,666	416,417
営業外収益		
受取利息及び配当金	1,776	1,635
受取家賃	6,243	5,786
雑収入	2,902	4,694
営業外収益合計	10,922	12,116
営業外費用		
支払利息	9,962	8,899
支払手数料	3,509	3,506
雑損失	1,973	1,984
営業外費用合計	15,445	14,391
経常利益	351,143	414,142
特別利益		
固定資産売却益	6,778	87
契約解約益	-	296,432
特別利益合計	6,778	296,519
特別損失		
固定資産除却損	11,143	1,299
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	9,918	-
特別損失合計	21,062	1,299
税引前四半期純利益	336,859	709,362
法人税、住民税及び事業税	158,000	326,000
法人税等調整額	36,513	25,239
法人税等合計	194,513	351,239
四半期純利益	142,346	358,123

(3)【四半期キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前四半期純利益	336,859	709,362
減価償却費	262,599	233,300
引当金の増減額(は減少)	10,100	31,205
受取利息及び受取配当金	1,776	1,635
支払利息	9,962	8,899
固定資産売却損益(は益)	6,778	87
固定資産除却損	11,143	1,299
売上債権の増減額(は増加)	774,117	633,952
たな卸資産の増減額(は増加)	135,537	439,284
仕入債務の増減額(は減少)	1,012,619	263,644
未払消費税等の増減額(は減少)	29,189	108,789
その他の資産の増減額(は増加)	5,439	3,930
その他の流動負債の増減額(は減少)	57,452	120,359
その他の固定負債の増減額(は減少)	10,363	240
小計	437,427	1,776,675
利息及び配当金の受取額	1,776	1,635
利息の支払額	10,535	9,184
法人税等の支払額	18,542	21,652
営業活動によるキャッシュ・フロー	410,126	1,747,474
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	72,971	43,710
有形固定資産の売却による収入	17,160	92
投資有価証券の取得による支出	330	384
固定資産の除却による支出	4,139	-
その他の支出	-	6,580
その他の収入	557	27,520
投資活動によるキャッシュ・フロー	59,723	23,064
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入れによる収入	375,000	500,000
長期借入金の返済による支出	353,500	379,000
リース債務の返済による支出	15,629	16,573
自己株式の取得による支出	199	62
配当金の支払額	83,325	83,753
財務活動によるキャッシュ・フロー	77,654	20,610
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	272,747	1,745,021
現金及び現金同等物の期首残高	4,512,980	4,122,366
現金及び現金同等物の四半期末残高	4,785,728	5,867,387

【継続企業の前提に関する事項】

該当事項なし。

【会計方針の変更等】

該当事項なし。

【四半期財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理】

該当事項なし。

【追加情報】

当第2四半期累計期間
(自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日)

第1四半期会計期間の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」(企業会計基準第24号 平成21年12月4日)及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第24号 平成21年12月4日)を適用している。

【注記事項】

(四半期損益計算書関係)

1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は、次のとおりである。

	前第2四半期累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日)
報酬・給料手当	180,768千円	173,209千円
荷造発送費	82,502 "	83,601 "
販売手数料	77,022 "	74,409 "
賞与引当金繰入額	10,764 "	8,363 "
減価償却費	20,190 "	21,036 "
役員退職慰労引当金繰入額	6,458 "	2,558 "
退職給付引当金繰入額	6,961 "	5,873 "
不動産賃借料	16,876 "	13,160 "
貸倒引当金繰入額	14,689 "	4,374 "

(四半期キャッシュ・フロー計算書関係)

1 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりである。

	前第2四半期累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日)
現金及び預金	4,785,728千円	5,867,387千円
預入期間が3か月を超える定期預金		
現金及び現金同等物	4,785,728千円	5,867,387千円

(株主資本等関係)

前第2四半期累計期間(自 平成22年4月1日 至 平成22年9月30日)

1 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成22年6月29日 定時株主総会	普通株式	83,902	3	平成22年3月31日	平成22年6月30日	利益剰余金

(注) 1株当たり配当額3円は、創立100周年記念配当1円を含んでいる。

2 基準日が当第2四半期累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期会計期間の末日後となるもの

該当事項なし。

3 株主資本の著しい変動

株主資本の金額は、前事業年度末日と比較して著しい変動はない。

当第2四半期累計期間(自平成23年4月1日至平成23年9月30日)

1 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成23年6月29日 定時株主総会	普通株式	83,895	3	平成23年3月31日	平成23年6月30日	利益剰余金

2 基準日が当第2四半期累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期会計期間の末日後となるもの

該当事項なし。

3 株主資本の著しい変動

株主資本の金額は、前事業年度末日と比較して著しい変動はない。

(持分法損益等)

	前第2四半期累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)
関連会社に対する投資の金額	870千円	870千円
持分法を適用した場合の投資の金額	6,220 "	6,941 "
持分法を適用した場合の投資利益又は 投資損失()の金額	221 "	143 "

(企業結合等関係)

該当事項なし。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

当社の事業は、船用内燃機関及びこれらの付随業務の単一セグメントであるため、記載を省略している。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりである。

項目	前第2四半期累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)
1株当たり四半期純利益金額	5円09銭	12円81銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(千円)	142,346	358,123
普通株主に帰属しない金額(千円)		
普通株式に係る四半期純利益金額(千円)	142,346	358,123
普通株式の期中平均株式数(千株)	27,966	27,964

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載していない。

(重要な後発事象)

該当事項なし。

2 【その他】

該当事項なし。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項なし。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成23年11月11日

神戸発動機株式会社

取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 堀 裕 三 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 笹山 直孝 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている神戸発動機株式会社の平成23年4月1日から平成24年3月31日までの第115期事業年度の第2四半期会計期間(平成23年7月1日から平成23年9月30日まで)及び第2四半期累計期間(平成23年4月1日から平成23年9月30日まで)に係る四半期財務諸表、すなわち、四半期貸借対照表、四半期損益計算書、四半期キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して四半期財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して、神戸発動機株式会社の平成23年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。
以上

(注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2. 四半期財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。